

3. 構造用材の品等区分

1 試験担当者

木材部材料科長：加納 孟
” 強度研究室：山井良三郎，高見 勇，近藤孝一，中井 孝
” 製材研究室：鈴木 寧，山口喜彌太，田所厚一郎
” 材質研究室：須藤彰司，中川伸策，斎藤久夫，小田正一，重松頼生，石原重春

2 試験目的

近年、木材の需要構造にはきわめて著しい変化がおこっており、木材価格の高騰にともないその消費分野においては他の生産材との競合があらわれている。木材使用量の過半をしめる建築材の分野においても、建築様式の変化、大工職の激減などを、背景として、この現象はとくに激しさを加えており、その結果は林業における木材の再生産にたいして重大な危機感を生じている。

木材需要面にあらわれているかかる現象を克服していくためには、各分野における木材の安定した需要を確保し、用途に適した木材の合理的利用をはかることが必要であるが、そのためには木材の用途にたいする性能を明確にし、その品質にたいする信頼度を高めるための措置がとくに重要であることは云うまでもない。

かかる意味から、この研究は建築用材にたいしてその実用的な品質（強度的性能および外観的な化粧価値）の裏付けをおこない、その標準化をはかるための根拠を確立することをねらいとしている。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

構造用材の品等区分

- 前年度までに調査したアカマツ平向、スギ挽き割り材、スギ正角材に対する実大強度試験の結果と、これらの試料から木取った無欠点小試片による強度試験から節による強度低減率を求め、構造用材における節の測定法、表示法について検討している。
- スギ挽き割り材、正角材については慣行的な品質表示法とJASによる品質表示法について調査し、その結果の取りまとめを継続している。

- スギおよび米梅正角の市販材の実態調査で表示寸法より小さいものが前者では約7～14%，後者では9.3～9.4%におよび、品質表示との問題点であった。また正角においてはJ

A Sによる品等は慣行的な表示等級より低く、とくに上小節～小節の等級において J A S 合格率が小さい。これは化粧的な評価においては判定材 _____，節、丸身の大きさなどが J A S の表示法上異っていることによるものであった。

- アカマツ材について節を断面欠損としたときの強度、試算値と実測値との比較で節による強度低下率は梁材の稜線に対する節の位置で異なり、このような節の種類べつの表示法が必要となった。

この結果については現在検討中である。

4 昭和44年度の試験計画

- スギひき割り材について行なってきた市販仕分け品の品質実態調査の結果ならびに、その問題点の検討結果などの取りまとめを完了する。
- スギ、米ツガの正角材について行なってきた市販仕分け品の品質実態調査の結果ならびに、その問題点の検討結果などの取りまとめを完了する。
- 節について強度低減因子としての表示法を検討するための強度試験を梁について継続する。
- 正角材について柱材としての実大強度試験の欠点による強度低減率について調査した結果の取りまとめを行なう。